

茨城伝統の“ほしいも技術”で アフリカの農民の収入安定・向上を支援

～東海村の(株)照沼勝一商店がタンザニアで市場志向型農業を展開～

国際協力機構（JICA）は1月21日、「中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～」において、茨城県那珂郡東海村の株式会社照沼勝一商店（代表取締役 照沼勝浩）による、「市場志向型農業を可能にするサツマイモの品種、栽培・貯蔵技術の普及・実証事業」を採択しました。

人口増加傾向のタンザニアは農業が中心的な産業で、特にサツマイモは日本の約1.6倍の生産量を誇っています。他方で、農業の生産性・付加価値向上による農村部の所得安定・向上や雇用創出、さらに食料確保が大きな課題になっています。

照沼勝一商店が有するサツマイモのバリューチェーン全体の管理技術を導入することで、サツマイモ農家の所得安定・向上や食品加工産業の育成、食糧安全保障などが図られます。



先行事業で商品化したいもけんぴ

今回の調査で食品加工に適したサツマイモの品種や栽培・貯蔵技術の導入、国内外での販売流通について、その可能性や課題、現地適合性を調査し、今後の事業展開に向けた検討を行います。

なお、本調査は我が国の中小企業等からの提案に基づき、途上国の開発課題の解決に有効に活用できるポテンシャルを有する製品・技術等の現地適合性を高めるための実証活動の実施および普及方法を検討することを目的とした「中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～」として実施される事業で、2015年度は昨年9月に公示を行いました。50件の応募のうち24件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次事業を実施します。

参考：(プレスリリース) 普及・実証事業 2015年度公示分の採択結果について

URL：http://www.jica.go.jp/press/2015/20160203_01.html

【本件に関する問い合わせ先】

筑波国際センター研修業務・市民参加協力課 担当：小峯

TEL：029-838-1117 E-mail：jicatbic@jica.go.jp